

令和8年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間) 最終)

函城中学校区 校番 14 学校名 呉市立函城中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力の向上	① 学力の向上	基礎・基本の徹底	【学力調査】 ○各調査において、正答率30%未満の生徒の割合は次のとおりであった〔単位％, 目標値:10%〕。 全国学力(3年) 国8.2 数20.4 標準学力(2年) 国2.2 社35.6 数8.9 理15.6 英22.2 標準学力(1年) 国6.5 社10.9 数8.7 理19.6 英4.3 ・教科や学年, 調査の種類によって割合が大きく異なる。難易度との相関も考えられる。 【生徒アンケート】 ○「時間の三点固定(学習を始める時間・就寝時間・起床時間)を意識して行動し, 生活リズムを確立できている」生徒の割合は, 75.0%〔目標値:80%〕であった。 1年:66.7%, 2年76.6%, 3年80.8% ・特に2年生で保護者アンケートの肯定的回答率との乖離が大きく, より丁寧な実態把握が必要である。	○キュビナの効果的な活用等により, 個別最適な学びを推進し, 基礎学力の定着を図る。 ○「二川授業スタイル」を踏まえ, 基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成の両面から学力の定着と向上を図る。 ○計画的に家庭学習を進め, 学習時間を確保できるよう, 学習方法・内容について継続して指導する。 ○タブレット端末を積極的に活用して学習課題を提示し, 自分で学習を調節しながら理解を深めることができるようにする。
		思考力・判断力・表現力の向上	【生徒アンケート】 ○「授業で課題に対し, 主体的に考えて表現する活動に取り組んでいる」生徒の割合は, 89.6%〔目標値:90%〕であった。 1年:82.2%, 2年91.5%, 3年94.2% ・特に1学年で授業改善を進めていく必要がある。 【学力調査】 ○各調査において, 全国平均を3.0ポイント以上上回る生徒の割合は次のとおりであった〔単位％, 目標値:60%〕。 全国学力(3年) 国53.1 数63.3 標準学力(2年) 国53.3 社20.0 数44.4 理51.1 英31.1 標準学力(1年) 国50.0 社47.8 数52.2 理30.4 英58.7 ・「基礎・基本の徹底」で述べたことと同様, 教科や学年, 調査の種類によって割合が大きく異なる。難易度との相関も考えられる。	○ICTの効果的な活用や協働的な学びの推進などにより「考える授業づくり」を進め, 考えたことを表現する場面を意図的に設定する。 ○特別支援教育や生徒指導の実践上の視点を踏まえ, 生徒の問いが生きる「考える授業づくり」を進める。 ○「二川授業スタイル」を踏まえ, 基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成の両面から学力の定着と向上を図る。 ○授業で各教科の見方・考え方を働かせ, 根拠を示し説明する場を設定し, 表現力をつける取組を進める。
豊かな心の育成	② 自尊感情の向上	自他を大切に認め合う生徒の育成【いじめの防止】	【生徒アンケート】 ○「学校に行くのが楽しい」と思っている生徒の割合は, 91.0%〔目標値:90%〕であった。 1年:91.1%, 2年:89.4%, 3年:92.3% ・2年生の肯定的回答率が昨年度より下がっていることが懸念される。 ○「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合は, 81.3%〔目標値:80%〕であった。 1年:75.6%, 2年:83.0%, 3年:84.6% ・1年生の肯定的回答率が低いことが懸念される。 ○「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている生徒の割合は, 98.6%〔目標値:100%〕であった。 1年:100%, 2年:100%, 3年:96.2% ・いじめの定義の理解を徹底する中, 各学年で, よりよい学級・学年集団づくりを進めていく必要性がある。	○生徒自身が課題を見付け, 解決に向けて努力し, 発展させていく取組を充実する。 ○いじめ撲滅キャンペーン等, 生徒会・委員会における生徒の主体的で自治的な活動をさらに推進する。 ○「自己を認識し, 自分の人生を選択し, 表現することができる力」の育成を目標に指導する。 ○生徒指導の4つの視点を基盤に自己肯定感・有用感を高める。 ○積極的な肯定的評価・発信を行い, 認め合う集団づくりを進める。 ○いじめ撲滅キャンペーンの取組を充実させ, いじめ撲滅の機運を高める。

豊かな心の育成	① 自尊感情の向上	主体的に行動できる生徒の育成	【生徒アンケート】 ○「将来の夢や目標の実現に向けて努力をしている」生徒の割合は、86.1%[目標値85%]であった。 1年:84.4%、2年83.0%、3年90.4% ・経年比較すると、2年次に肯定的回答率が下がっている。高みを目指し、キャリア教育を進めていく必要がある。	○自己理解を深めたり、社会への関心を高めたりし、主体的な進路選択につなげていく。 ○「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」の育成を目標に組織的に指導する。
	★	体力の向上	【生徒アンケート】 ○「運動やスポーツをしたり、体を動かしたりすることが好き」と肯定的に回答している生徒の割合は、82.6%[目標値90%]であった。 1年:80.0%、2年87.2%、3年80.8% ・全学年、体育の授業や部活動、その他の教育活動でも、主体的に体を動かす工夫を取り入れる必要がある。	○体育の授業で楽しく体を動かすことができるルールづくりを進める。 ○部活動顧問の意識や指導技術を向上させ、体力向上につなげる。 ○保体委員会のボール貸出等、昼休憩のグラウンドでの活動の奨励を継続する。
健やかな体の育成	② 生きる力の向上	生活リズムの確立	【生徒・保護者アンケート】 ○「時間の三点固定を意識して行動し、生活リズムを確立できている」の肯定的回答率は、生徒75.0%[目標値:80%]、保護者63.4%[目標値:65%]であった。 生徒 1年:66.7%、2年76.6%、3年80.8% 保護者 1年:63.0%、2年:55.3%、3年:71.4% ・特に2年生で保護者アンケートの肯定的回答率との乖離が大きく、より丁寧な実態把握が必要である。 ○「携帯・スマホ等の通信機器を、PTA宣言とおり、21時以降は保護者が管理している」の肯定的回答率は、生徒63.2%[目標値:70%]、保護者58.0%[目標値:65%]であった。 生徒 1年:64.4%、2年66.0%、3年59.6% 保護者 1年:67.4%、2年:51.1%、3年:56.0% ・「PTA宣言」に関しても、特に2年生で保護者アンケートの肯定的回答率との乖離が大きい。1年生は保護者の方が高く、逆転している。	○計画的に家庭学習を進めることができるよう、学習方法や学習内容について継続して指導する。 ○睡眠時間の確保を含め、適切な睡眠についても継続して指導する。 ○「時間の三点固定」と「PTA宣言」の取組をセットで発信し、生徒が自分の生活を自分でコントロールする力を向上させる。 ○情報モラル教育と合わせ、スマホ等の適切な使い方について、繰り返し指導する。
		「自分の命は自分で守る」力の育成	【生徒アンケート】 ○「自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している」生徒の割合は、99.3%[目標値:100%]であった。 1年:100%、2年97.9%、3年100% ・ほぼ全員が肯定的に回答しているが、約3分の1が「そう思う」に止まっており、より理解を深める必要がある。 【生徒アンケート】 ○「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している」生徒の割合は、97.2%[目標値:100%]であった。 1年97.8%、2年95.7%、3年98.1% ・ほぼ全員が肯定的に回答しているが、約3分の1が「そう思う」に止まっており、より理解を深める必要がある。	○地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育に系統的に取り組み理解深化を目指していく。 ○2種類の携帯マニュアルや「わが家のルール(災害時の対応)」の取組を通して、家庭で防災について話し合う機会を多くつくっていく。

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	生徒と向き合う時間の確保	【教職員アンケート】 ○「日々の業務の中で充実感を得られている」と感じている教職員の割合は87.5%[目標値:100%]である。 ・「働きやすさ」と「働きがい」を実感できる職場にしていける必要がある。	○日常的なOJTにより、教職員一人一人の資質・能力を向上させ、協働して教育活動を進める。 ○相互授業参観や指導方法の検討などを推進するなど、チームとして協働していく中で達成感を味わえるようにしていく。
		長時間勤務の削減	【入退校記録】 ○時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合は65.2%[目標値:100%]である。 ・特定の教職員に業務が偏らないようにするため、協働、参画の意識をより高める取組を推進していく必要がある。	